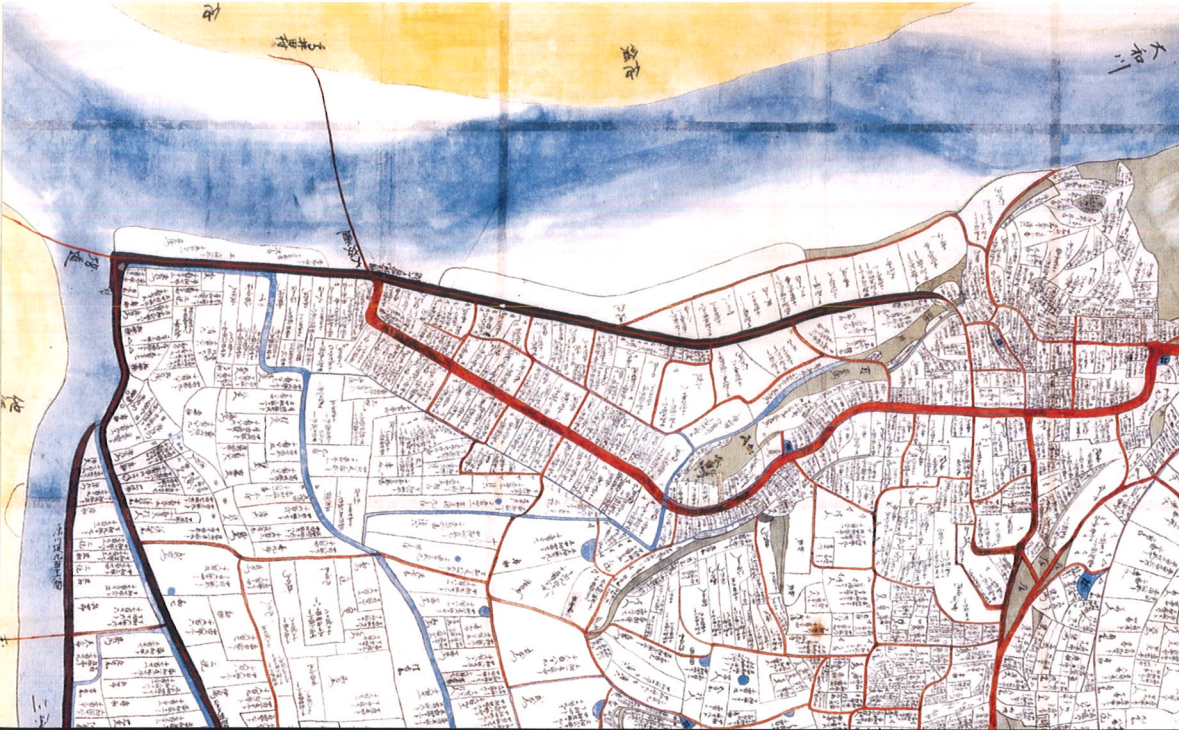
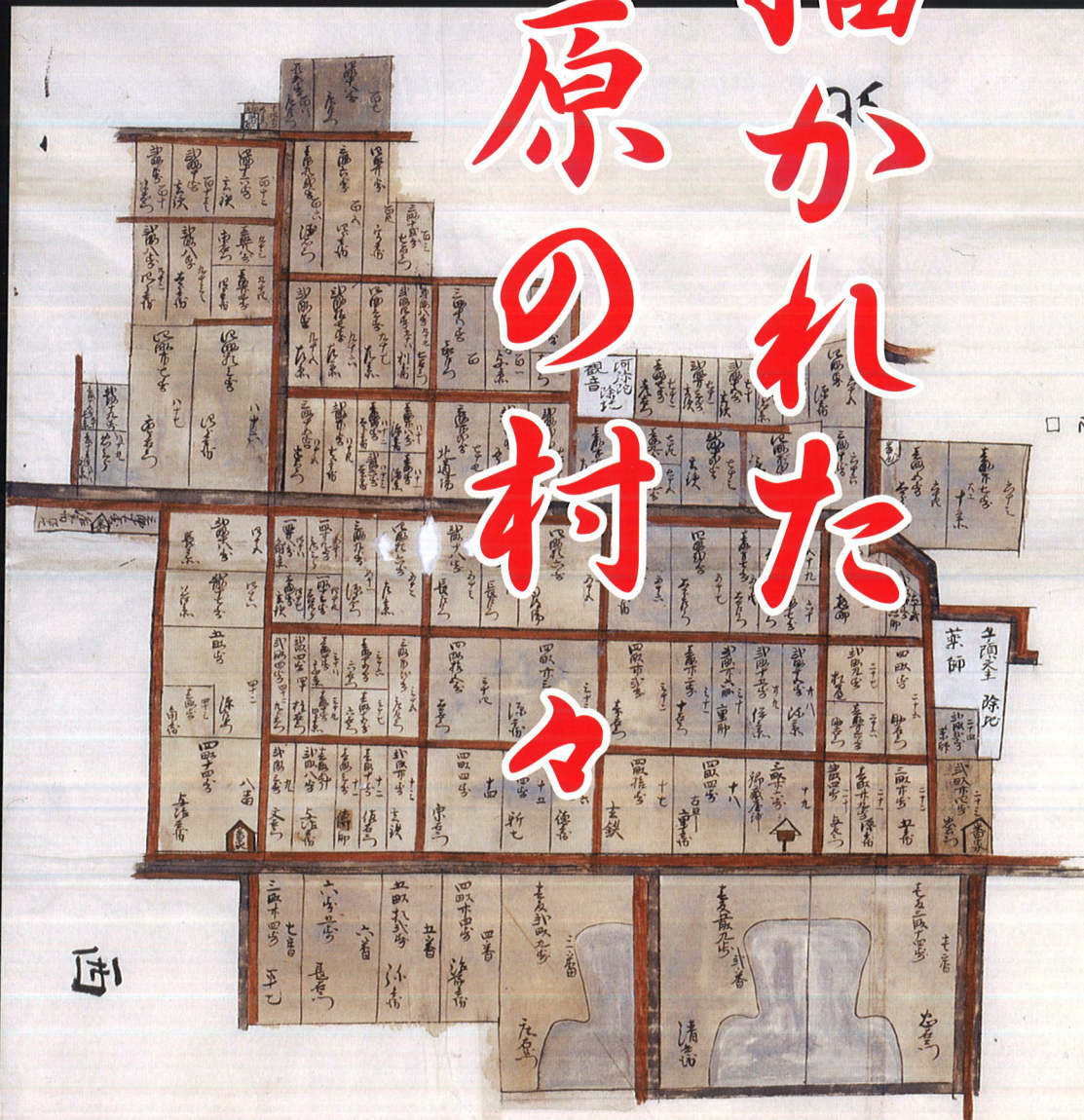




絵 図 に 描 か れ た

柏 原 の 村々

柏原村絵図



平成22年3月27日(土)から
6月20日(日)まで

柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日
開館時間 九時三〇分～一六時三〇分
入館料 無料
交 通 J R大和路線高井田駅から徒歩五分
近鉄大阪線河内国分駅から徒歩一五分

大阪府柏原市高井田一五九八一
電話 〇七二一九七六―三四三〇

絵図に描かれた柏原の村々

昔の地図を見るのは、楽しいものです。昔はどんな様子だったのか、今はどう変わったのか。当館には、江戸時代に描かれた色彩豊かな地図がたくさんあります。これを絵図^{えず}といいます。絵図は、現代の地図に比べると精度が劣ります。しかし、今の地図には表現されないものが描かれていたりします。絵図は、何か目的があって描かれたため、その目的に関わることを詳しく表現しているためです。これらの絵図の中から、今回は柏原^{かしわら}の村々を描いた絵図を集め、みなさんにご覧いただくことにしました。絵図の美しさとともに、絵図からさまざまな情報を読み取っていただきたいと思います。

江戸時代の柏原

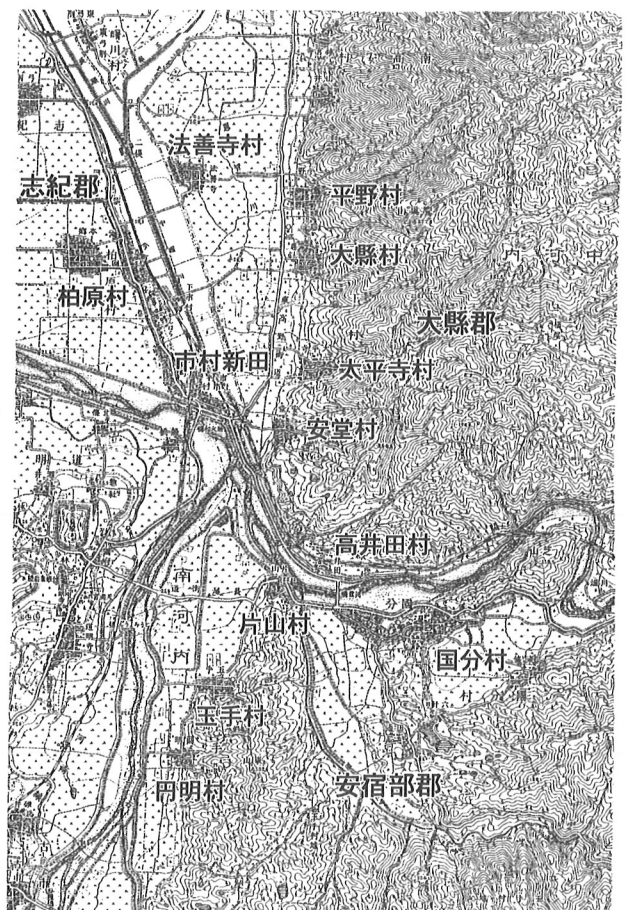
現在の柏原市域は、江戸時代には河内国志紀郡、大縣(県)郡、安宿部郡に分かれていました。志紀郡^{しき}は、宝永元年(1704)に付け替えられる前の旧大和川の左岸(西側)にあたり、八尾市の南部から藤井寺市にかけて広がっていました。柏原市域には柏原村と市村新田^{いちむらしんでん}という、二つの村がありました。大縣郡^{おおがた}は、旧大和川の右岸(東側)にあたり、北は高安郡、東は大和国、南は大和川に接していました。大縣郡^{おおがた}は、八尾市神宮寺と柏原市域の平野村、大縣(県)村、太平寺村、安堂村、高井田村、法善寺村、雁多尾^{かりんどお}畑村、青谷村、峠村、本堂村に分かれていました。安宿部郡は、大和川と石川にはさまれた範囲で、国分村、片山村、玉手村、円明村があり、羽曳野市駒ヶ谷まで含まれました。

柏原村・安堂村・高井田村・国分村の絵図

今回の企画展で絵図が展示できた村は、柏原村、安堂村、高井田村、国分村の四村です。

柏原村は、本郷^{ほんごう}、古町^{ふるまち}（もと新町、のち古新町）、今町^{しんまち}（もと新町）に分かれていました。古町、今町は奈良街道に沿って開かれた町で、柏原船の営業などを通じて、交通・経済の中心として栄えました。安堂村には京街道（東高野街道）が通り、二本の用水が村の中を流れていました。高井田村は、大和川の北に位置するため、対岸の国分村との間に渡しが通じていました。国分村は、大和川の水運を利用した国分船^{たつたごえ}、竜田越^{ひるめごえ}、蛭目越^{せきやごえ}、関屋越^{たじりごえ}などの街道などによって、河内と大和、中河内と南河内を結ぶ交通の要衝として発展した村です。枝村として東条^{えだむら}、六軒^{ろっけん}、田辺^{たなべ}がありました。

これらの絵図は、江戸時代の柏原の村々を記録に留めるとともに、その後の柏原市がどのように変化・発展してきたかを物語る貴重な史料であります。この絵図をご覧になって、わがまち柏原について愛着を深めていただければ幸いです。今後も絵図を集め、いずれほかの村についても紹介したいと思っています。



江戸時代の柏原の村々
(5万分の1、地図は明治の地図)